

清流

題 字 : 芳野 充

令和 7 年 6 月 30 日
第 102 号

発行所 加来不動産(株)
発行者 加来 寛
北九州市小倉南区守恒本町1-12-23

穏やかに

静かに

清流のように

与えられた命を正しく生かす

生まれてこの世を去るまでのあいだに、わたしは動物や魚、野菜などからどれくらい命をいただいて生かされているのだろうか、と学生時代にぼんやり考えていたことを、ある一節を目にして思い出しました。

「与えられた命を正しく生かすとは、おのれの天分に気づき、それをさらに鍛錬することによって世のなかの役に立つことをいうのではないだろうか。天分とは、天から与えられた資質のことですが、なにも特別な才能をさすわけではありません。自分の、好きなことと考えてよいでしょう」(『月刊素心集』より)

わたしはおおくの命をもらうばかりで、自分の得意なことや好きなことを自覚し、それを生かせているだろうか、と考えていたとき、妻のある行動がお手本のように感じられました。

会社であるイベントを開催した際、妻が参加者に対してパンとジャム作りの手ほどきをしていました。その伝え方や教え方もさることながら、本人が生き生きと楽しそうだったのが印象的でした。おかげでイベントは盛況で幕をとじたのですがその後、参加者の一人からうれしい報告をうけました。

「イベントをとおしてパンとジャム作りに参加し、その楽しさに気づいてから、自宅でもパンとジャムを作っています。たくさんジャムを作ったのでおすそ分けです」と持ってきてくれたのです。

妻は「自分は料理を作ることが好きだ」ということを自覚し、数ヶ月前から料理教室にかよいはじめました。料理教室の先生から教えてもらうことで、人に料理を教えるコツも身につけたのではないのでしょうか。つまり自分の好きなことを自覚しさらに磨いた結果、参加者によるこんでもらい、また料理の楽しさを伝えることができました。

与えられた命を正しく生かす、とは何か特別なことをする、ということではなく、自分の才能や能力に気づき、それを磨いてまわりの人によるこんでもらうこと。あるいは世のなかの役に立つことだ、と気づかされました。

それを実現するためには、自分と向き合う素直さや謙虚さが必要だと思うのです。なぜなら素直でない、とまわりの人から才能や能力をほめられ認められても、それを受けとることができません。謙虚でない、自分の才能や能力に気づいても、人に教えるを乞うてまで行動しようとはしません。

良くも悪くも人は大人になるにつれ、経験や知識と引きかえに先入観や固定観念、自分さえよければとワガママがつよくなる傾向にあるので、本来もっている才能や能力に気づきづらくなっているのかもしれない。

素直さや謙虚さを大切に、自分の好きなことを生き生きと行動すること、まわりに安心や心地よさが伝わるのではないのでしょうか。命を正しく生かすとは、案外その延長線上にあると思うのです。

加来 寛

